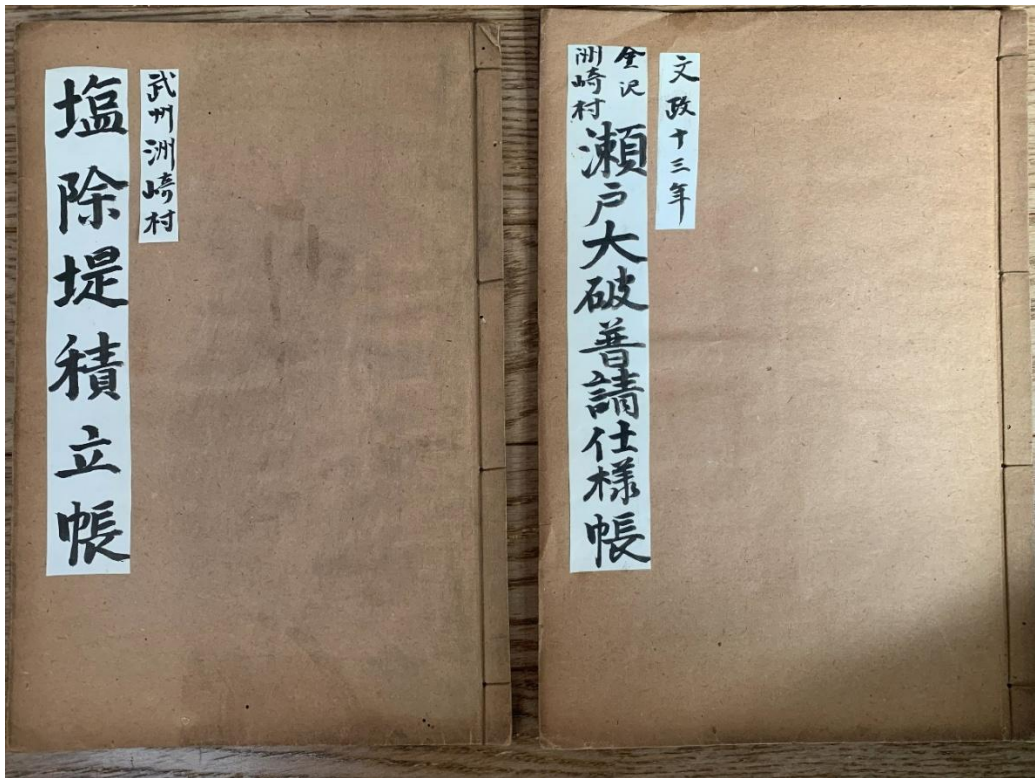


令和8年2月歴遊会かねさわ

金沢洲崎古文書



洲崎の古文書 令和8年2月購入

飯塚所蔵

「小泉夜雨」の読みについて

近年は、こずみと呼んでるようであるが、江戸時代の能見堂からの出版物や、金沢の絵図、浮世絵、双六、地誌、絵葉書などの、ふり仮名をみると、「こいつみのよるのあめ」「こいづみのよるのあめ」「こいつみのやう」などのように、「こいづみ」と呼んでいる。江戸時代は、こいづみと呼ばれていたのではないか。

万治二年の中川喜雲の『鎌倉物語』には、瀟湘夜雨（しょうしょうよるのあめ）のところに、「こつみといふ所をいう」とある。大正十五年の家田洋文氏の「武州金澤六浦案内」に「こずみやう」昭和十三年の関靖氏の『かねさわ物語』には「こずみのやう」と書かれているが、江戸時代や明治の資料には、「こいづみ」が多い。

飯塚玲子